

【補助事業概要の広報資料】

補助事業番号 25-4-001

補助事業名

平成25年度「被災地域および被災者受入地域における支援拠点、ネットワークづくり活動補助事業」

補助事業者名 NPO法人伊豆どろんこの会

1 補助事業の概要

(1)事業の目的

出来るだけ満遍なく多くの人に情報が伝わるよう配慮いたします。また、県内の被災者支援をしたいが、方法が分からないNPOに情報を供給し、協働して被災者を支援いたします。

年4回の交流会、シンポジウム、カウンセリング等のヒアリング事業を行います。また今後、避難者が故郷の被災地に帰った際の近況情報を許す限り発信し、出来れば県内避難者の心の拠り所になる情報発信も行います。

被災地取材し、皆さんの故郷の真の情報を伝え、故郷との繋がりを実感を持って強く感じて生きていただきます。日々変わる被災地の状況は常にテレビで映し出される訳ではございません。故郷の自分の家の隣の状況は中々伝わりにくいものです。生きた本当の濃い情報を伝えられればと思います。以上の事業を通じて東日本大震災の記憶と記録の風化を少しでも防ぐ事が大きな目的です。

(2)実施内容

交流会 & 現地状況調査



現地調査：JKA事業RING!RING!プロジェクトで、2013年5月20日宮城県東松島町現地調査及び2013年6月28～30日開催の沼津市・富士宮市での交流会詳細説明に宮城県東松島あんでなしよつぷ「まちんど」まで伺いました。

店長伊藤せい子さん、大曲浜獅子舞保存会事務局長熱海晃良さんには大変ご苦労をおかけいたしました。本当にありがとうございました。

2013年5月28日

福島県いわき市久之浜市役所大久林支所長と現地状況調査及び6月22-23日の伊豆の国市交流会詳細説明

第1回交流会



2013年6月22～23日
いわき市久之浜第一小学校の子供たちと静岡県伊豆の国市で交流会

第2回交流会



2013年6月29～30日
東松島市大曲浜獅子舞保存会の皆さんと静岡県沼津市・富士宮市
で交流会(沼津市・富士宮市で獅子舞を披露し交流を深めました。)

福島県第一原発事故周辺視察交流会



2013年8月24日

県内被災避難者の皆さんと双葉町・富岡町からの被災避難者宮本さん・佐藤さん(バス内写真左;佐藤大氏、右;宮本秀範氏)と福島県第一原発事故周辺視察交流会(写真右は浪江町。通常では一般の人が立ち入れない地区をお二人の行政への計らいで視察可能となりました。)

被災地慰問コーディネート



2013年9月8日9日

静岡ボランティア協議会関係者33名を被災地慰問コーディネートいたしました。福島県いわき市高久の仮設住宅の皆さんに余興やマッサージ、化粧メイク、マジック、踊りなどを披露し一緒に踊ったり歌ったりして仮設住宅の生活のひと時の癒しを提供できました。翌日はいわき市～広野町～楡葉町～富岡町と福島県第一原発事故で苦しむ被災地の視察研修を地元ガイドの佐藤さんをお願いして実施いたしました。

第1回福島ヒアリング



2013年10月24～27日

第一回福島ヒアリングを実施いたしました。写真は福島第一原発事故でぎりぎり30KM 圏外となったいわき市久之浜の市役所大久支所の会議室をお借りして行ったヒアリング風景です。対象は社会福祉協議会の皆さんです。普段住民のケアをする皆さんのケアが出来たらと思い、市役所のお力を借りて実現いたしました。

第3回交流会



2013年11月9～10日
第三回交流会で稲刈り、バルーンやハイキング等で交流いたしました。子供も大人も楽しいひと時を過ごしました

第2回福島ヒアリング&現地視察



2013年11月29日～12月2日
第二回福島ヒアリング&現地視察 ヒアリング前に現地を視察、被災地の現状を知り被災者の思いを少しでも理解できる情報を現地の人に案内してもらいます。ヒアリングの風景です。約40分間被災者の皆さんのお話をひたすら聞きます。

第4回交流会



2014年1月18日
ロープウェイで葛城山に登って最高の富士山を見たり、餅つきや、三津シーパラダイスでお魚見たり楽しい交流会でした。静岡避難者・はままつ東北交流館の館長佐藤大氏の声掛けで行いました。2014年3月11日避難者の心の拠り所だったはままつ東北交流館は閉館となりました。

被災地復興防災シンポジウム



2014年1月19日

NPO 法人伊豆どろんこの会では4回目の被災地復興防災シンポジウムです。原発の事故の悲劇を題材にした「朝日のあたる家」を上映後、被災地福島県双葉町の川崎葉子さん同じく双葉町の佐藤大さん、宮城県塩釜市の相澤正樹さん、伊豆の国市市役所危機管理課宮口広明さんをお招きして、2011年3月11日その日被災地で何が起きてどうなっていたのか、今後その経験をどう活かして行くのかをお話いただきました。静岡県市行政からは南海トラフ東海大震災の被害予想など防災に関する情報が語られました。シンポジウム終了後も地元の皆さんの質問が止みませんでした。

河津桜元気プロジェクト



2014年2月8～9日

チーム桜龍(リーダー佐野弘子さん)が中心になって地震と津波その後の原発事故で苦しむ久之浜を桜で埋め尽くそうと言う元気プロジェクトをコーディネートいたしました。2月8～9日は50年ぶりの大雪に日本全国が覆われました。大雪の吹雪中、静岡県から参加の7名と現地の皆さん、被災地自治会長さん、諏訪神社宮司様には本当にお世話になりました。大雪の中植樹された河津桜はその後の久之浜の皆さんの報告で「早くも苗木の蕾が咲きました。」と嬉しい報告を受けました。

高校サッカー交流伊豆合宿コーディネート



2014年3月29～31日

宮城県立松島高校・県立石巻高校のサッカー部監督より静岡県の高校サッカー交流伊豆合宿コーディネートの要請が有りました。NPO 法人伊豆どろんこの会の呼びかけに、静岡県の高校が被災地復興協力を共感し、多くの高校が手を挙げていただきました。参加高校は日大三島高校・暁秀高校・御殿場南高校・加藤学園高校・飛龍高校・三島北高校・富士東高校・沼津西高校、の8校が名乗りを上げていただきました。被災地と静岡県の若い魂がぶつかり合い、切磋琢磨し、心の絆が結ばれる事でしょう。

東日本大震災から3年が過ぎました。震災の記憶の風化が深刻化してきております。被災地以外の他県での震災への関心が薄れて来ているのです。

静岡県は東海大震災が何時来てもおかしくない地域です。自分の代で来ないにしても、若い世代が東日本大震災を後世に繋げていけば必ず救われる命と魂が有る。高校生が志を持って動き出しています。若き交流が明日の日本の救いになればと願うばかりです。河津桜が成木になり桜並木に変わる頃、成長し遅くなった嘗ての高校生達を眩しく見る事が出来ると確信いたします。

震災被災地と他県の高校生交流を進めて若い世代の交流をコーディネートし、震災の記憶と心の交流に発展して行ききっかけをつくりました。若い世代が成長して発展して行く民間レベルの若い交流が始まりました。若い世代の交流を積極的に行う事で震災の風化を防止し、次世代が迎えるであろう大震災の心の交流が互いを助け合う絆に繋がって行く事と予想されます。

3 本事業に係る成果物

(1) 補助事業により作成したもの

伊豆どろんこ新聞 1号～5号



被災地復興防災シンポジウムチラシ

第4回
被災地復興
防災シンポジウム2014
in伊豆の国市

「朝日のあたる家」無料上映

2014年1月19日(日)午前9時～ 防災シンポジウム
 大地震に備え今出来る事、被災地に未来に対し今出来る事。

シンポジウム・パネリスト▼
 1、NPO法人ランラン多賀城理事長、相澤 正善 氏
 2、「福島に返りたいプロジェクト」福島県双葉町の 川崎 菜子 女士
 3、3・11福島第一原発事故当日そこで働いていた福島県双葉町の 佐藤 大 氏
 4、原発事故の悲劇を描く映画「朝日のあたる家」監督 太田 隆文 氏 (予定)

開催日▶2014年1月19日(日)午前9時～ 防災シンポジウム
 2014年1月18日(土)午後7時～ 交流会

会場▶伊豆の国市ホテルアクアサンタ(シンポジウム会場)

参加▶シンポジウム参加費無料

主催▶NPO法人伊豆どろんこの会 共催：はままつ東北交流館

お問い合わせ▶「第4回 防災シンポジウム2014 in伊豆の国市」実行委員会
 委員長 白井忠志 ☎080-3754-9919
 〒410-2201 伊豆の国市古奈351の2
 (ホテルアクアサンタ内 ☎055-947-1999)

後援：伊豆の国市・伊豆の国市教育委員会



RING!RING!プロジェクト
 この取組物は「認輪&オートレースの補助事業」の支援を受けて発行しております。

(2)(1)以外で当事業において作成したもの
 該当なし

4 事業内容についての問い合わせ先

団体名： NPO 法人伊豆どろんこの会 (エヌピーオーハウジンイズドロンコノカイ)

住 所： 〒410-2201 静岡県伊豆の国市古奈 351-1

代 表 者： 理事長 白井忠志(シライタダシ)

担当部署： 理事長 白井忠志(シライタダシ)

担当者名： 役職名 理事長 白井忠志(シライタダシ)

電話番号： 055-944-6288

FAX： 055-944-6262

E-mail： izudoro@bocca1.com

URL： <https://www.facebook.com/izudoro?fref=ts>